

目標達成計画

作成日：平成 23 年 2 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	64	地域との繋がりという点については、行事などで地域の方のボランティアさんに来ていただく事はあるが、日常的な交流はない。 立地的にも、交通に不便であったり、山の上ということもあり、近所の方が気軽に立ち寄ることが難しい。	お年寄りに限らず、地域の方が誰でも気軽に立ち寄ってもらえる場所にしていきたい。 おしゃべりや交流だけではなく、来て下さる方の相談にも時には応じることができるよう存在になっていきたい。	大きな行事の時だけではなく、日頃から関わっていただけるボランティアさんを作っていく。 捨て布切りやお話し相手、外出の付き添いなど募集や個別で積極的にお願いをしていく。 気軽に立ち寄ってもらえる環境作り・ミニ介護教室・座談会などを企画していく。	6ヶ月
2	38	重度化や高齢化に伴い、食事・排泄・入浴の援助に関わる時間が多くなり、職員の段取りが優先されてしまう場面も多く起こる現状がある。 職員の技術や意識の持ち方で散歩や買い物・レクなどできることもあるので、頑張りたい所である。	現在の重介護が、一人ひとりの入居者さんの状況に合わせた、必要な援助であることを理解する。 その上で、技術や知識の向上・その方の思いに寄り添う気持ちを大切にできる支援を実践していきけるようになる。	内部学習会や外部の研修に積極的に参加し、重度化・高齢化に対応できる技術や知識を身につけ、自分達の介護に自信を持てるようになる。 人の生活を支えるという基本姿勢を忘れず、常に相手の立場になって考える視点を大事に、日々の関わり・支援にあたれるようにする。	6ヶ月
3	66	職員が、生き活きと働けているかという、判断しにくい難しい課題である。 この仕事は、喜びや感動も多いが、人との関わり・認知症の進行や病気・死と常に向き合うため身体的精神的な負担も大きい仕事であることを理解しておく必要がある。	喜びや困難を分かち合い、乗り越えていく職員集団を目指していく。 職員が、お互いの個性を尊重し、チームで入居者の方々を支えていく、チームワークの大切さ・楽しさを理解する。	日頃のコミュニケーションを大切にする。 職員会議やケース会議を通して、意見を出し合うこと、個々の喜びやしんどさを、チームで共有し、仲間が潰れないよう、成長できるよう、介護の仕事にやりがいと楽しさを感じられるようにする。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。